

## 社会活動を地域のしごととして続けるには…

### 巻頭言

「わたしたち」の拡がりを目指して……走井 洋一 1

### 争論 One for “All” ?……2

01 組合員活動から「コミュニティ・ワーク」へ……中村 久子・岡田 百合子 3

02 他者に認められ、自分も満足できるはたらきかた……富沢 賢治 12

### 特集 社会活動を地域のしごととして続けるには… ……21

01 スモール・ビジネスを持続的に発展させるために～英国の社会的企業 SES …熊倉 ゆりえ・中島 亮子 22

02 お金の地産地消を目指して～“志金”を通じた地域の課題解決……下門 直人 28

03 協同セクターが担う地域再生の可能性を考える～近畿ろうきんの共生事業を事例として……法橋 聡 33

### 海外の協同をたずねて

国際社会的経済フォーラムと協同組合……金 亨美 42

### 書評

01 『社会的企業論～もうひとつの経済』 山本 隆 編著……中西 典子 48

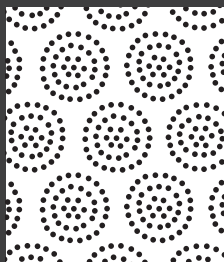
02 『次世代共創マーケティング』 池田 紀行・山崎 晴生 著……竹野 豊 50

03 『ルポ高齢者ケア～都市の戦略、地方の再生』 佐藤 幹夫 著……福澤 萌 52

投稿規定…… 54

バックナンバー／編集後記…… 55

小  
紋  
撰  
趣



#### 表紙紋様「いちごの紋様」

食べられない苺を“蛇苺”、食べられる苺を“野苺”と言います。日本では平安時代には野苺を食べていたようです。江戸時代末期になって、現在のような苺がオランダ船で長崎にもたらされました。苺の和名を“オランダ苺”というのはこのためです。ただし、はじめは食用ではなく、観賞用として親しまれていたようです。

この小紋柄“いちご”のデザインは、“野苺”か？“オランダ苺”か？江戸時代のデザイナーは、どちらの“苺”をデザインしたのでしょうか？

田内隆司／京小紋画像提供（田内設計事務所）